

東京湾の魚介類と環境を調べてみよう～東京湾の本当の姿を実体験！～

独立行政法人

海洋生物学、水産学、生態毒性学、環境化学、環境科学

国立環境研究所 環境リスク研究センター

会期：2010年8月17日(火) 10:00～8月19日(木) 15:00 2泊3日

東京湾は“江戸前”と呼ばれる豊かな海で、さまざまな生き物が暮らし、漁業も盛んでした。しかし、首都圏への人口集中と高度経済成長が進む中、埋立てや工場立地が進み、干潟や藻場が減少して水質汚濁が進み、漁獲量も減少しました。環境庁が発足し、水環境政策が実行されて水質には一定の改善もみられますが、魚介類はまだ十分には戻ってきていません。

今回のキャンプでは、現在の東京湾の環境とそこに暮らす魚介類の本当の姿を体感します。調査用漁船に同乗し、水質観測や底曳き網による魚介類採集を行い、採集された魚介類の種類や量（個体数と重量）を調べることで東京湾調査を実体験し、東京湾で進行中の“生態系の変化”を知ります。自分の目と手で魚介類と水質環境を調べ、東京湾の本当の姿を知り、そこから私たちの社会と環境の問題を考えます。



会場

横浜市漁業協同組合本所・柴支所 柴漁港（初日）

神奈川県横浜市金沢区柴町397番地

(JR「東京駅」より約1時間30分)

横浜新都市交通「海の公園柴口」下車、徒歩約5分)

国立環境研究所 環境リスク研究センター（2、3日目）

茨城県つくば市小野川16-2

URL：<http://www.nies.go.jp/>

宿泊場所：アーバンホテル（予定）

募集人数

8名

キャンプのプログラム内容（予定）

(1) 東京湾の2地点で水質観測

横浜市・柴漁港から小型底曳き網漁船（長さ15m程度、約5トン）2隻に4名ずつ分乗して出港し、東京湾北部（生物が生きていけないほど酸素濃度が低くなった海水の塊である貧酸素水塊の発生が予想される海域）と南部（貧酸素水塊が発生していない海域）で、それぞれ、水温、塩分、溶存酸素濃度をCTD/DOロガーという観測器で測定します。

(2) 底曳き網による魚介類の採集

上記の2地点で水質観測の後、30分間、底曳き網による魚介類採集を行います。採集された魚介類のうち、魚類、甲殻類、軟体動物、棘皮動物を船上で選別し、氷冷してつくば市の環境研究所に持ち帰ります。

(3) 採集された魚介類の種類と量を調査

環境研究所の実験室で、底曳き網で採集した魚類、甲殻類、軟体動物、棘皮動物の種名を図鑑で調べ、それぞれの種の個体数と重量を計数します。

(4) 水質観測データの解析

CTD/DOロガーによる溶存酸素濃度などの水質観測データ（水深別の水温、塩分及び溶存酸素濃度）について、コンピュータソフトを用いて簡単に解析します。

(5) 東京湾の水質と魚介類に関するデータの整理とまとめ

前日までの2日間に得られた東京湾の水質と魚介類に関する調査結果を公表し合い、意見や感想などを話し合います。

その後、国立環境研究所スタッフがこれまでの東京湾における生物・環境調査の結果の概要を説明します。最後に、現在の東京湾の環境と魚介類、漁業などの人間活動について皆で話し合い、魚介類が“豊かな”状態に東京湾を再生させるには何が必要かを考えます。

(補足1) 調査用漁船にはトイレがありません。(補足2) カップ(上下)、長靴、酔い止め薬などが必要です。(補足3) 当日の天候及び海象によっては、初日の水質観測と魚介類採集が2日目に延期される場合があります。2日目も荒天の場合、水質観測と魚介類採集が中止される場合があります。その場合、東京湾で予め採集された魚介類標本を用いて、キャンプの実習内容の(3)、(4)及び(5)の実習をつくば市の国立環境研究所で実施します。

スケジュール（予定）

1日目 8月17日(火)

10:00～10:30 「柴漁港」集合。開講式／概要説明
10:30～14:30 水質観測と底曳き採集（船上で昼食）
15:00～17:30 柴漁港～環境研究所（バス移動）
*集合時間が早いため、遠方からの参加者は前泊が必要な場合があります。保護者と相談して応募を検討してください。

2日目 8月18日(水)

9:00～12:00 魚介類の種名と個体数・重量の調査
12:00～13:00 昼食
13:00～17:00 水質観測データの解析
17:30～19:30 講師等との交流会

3日目 8月19日(木)

9:00～12:00 データ整理。とりまとめと発表
12:00～13:00 昼食
13:00～14:30 今後の展望とまとめ
14:30～15:00 閉講式

1、2日目の夜は宿舎でミーティングを行います。

プログラムの関連図書、Webサイト紹介

国立環境研究所 環境リスク研究センター

URL:<http://www.nies.go.jp/kanko/news/24/24-2/24-2-02.html>

URL:http://www.nies.go.jp/risk/mei/mei007_4.html